

名正運輸

輸送と物流センターなどを運営する3PL事業を手がける名正運輸(加藤新一社長)はこのほど、道路交通安全マネジメントシステムの国際規格・ISO39001の認証を世界で初めて取得した。安全という、かけがえのない価値を形にするマネジメントシステムを組み込むことで、社員の意識改革とビジネス品質の向上を図り、全国的に認知される総合物流企業をめざしている。

■ 各種規格を取得

同社はこれまで10年度から順次、ISO9001、14001、27001など品質管理や環境、ITなど国際規格のほか、製造関係企業

安全運転へ世界初ISO

乗務停止や添乗指導がルール化されており「常にハイレベルな運転品質を追求する」(同)ことにつながっている。

今回のISO39001は、道路交通安全のために組織が取り組むべき要求事項を定めた国際規格で、運輸事業者だけでなく社用車で営業や自社製品の配送を行うメーカーなど、道路交通安全にかかわる全産業が対象となっている。

交通事故は、被害者に対する治療費や慰謝料、被害物の修理代などに加え、企業イメージの低下や取引先からの信用失墜といった直接、間接的な経営損失が生じてくる。

■ 事故リスク軽減

事故防止のリスクマネジメントは「わかりやすい客観的な物差しであると同時に長い目で見ればコスト削減にもつながる」



「自分」流ではなく、世間のまなざしで検証してきたのが大きい」と話す加藤新一社長

＜会社プロフィール＞ 本社は愛知県海部郡飛鳥村大宝7の60。運輸や物流センターを運営する3PL事業を展開。従業員数は1500人、車両数282台。

チェックし数値管理するなど、実践・継続するマネジメントシステムを構築していった。事務所とのギャップを埋める

客観的物差しで検証が信頼に

が取得するケースが多いOHSAS18001(職業上の健康と安全に関する評価シリーズ)など、多彩な規格の認証を取得してきた。

こうした中で、1998年から本格的に安全委員会を立ち上げ、交通安全への取り組みを強化。それら社内活動が「どの程度のレベルにあるかを認識し、より向上させるため、これらの規格を活用してきた」。

アルコールチェッカーをはじめ全車にデジタルタコグラフを完備し、社速(法定速度以内)を統一して遵守させる一方、各ドライバーの詳細な運転実績情報を盛り込んだ安全運転日報を日々自動生成する仕組みを採用している。

その結果をもとに、2カ月連続平均点99点以下の乗務員には

として、業界に先駆けて取り組んだ。

このプロセスの中では「取得のためのISOにならないよう、これまでの取り組みをISOに乗せて組み直すよう心がけた。これまでの経験があり、共通する部分もあったので比較的スムーズに対応できたが、結果に出すのが難しかった」。

このため、従業員の意識改革を進めつつ、自社の取り組みに合うものを選び、これらを毎月



安全運転を徹底する同社のトラック

事故防止に妥協なし

ため各現場に安全衛生員会を設置して「ヒヤリハット、情報の共有化などとともに、リスク発生の潜在的要因を列挙した「リスクアセスシート」による管理や、交通安全対策項目「パフォーマンスファクター」の監視測定を実施。これらを徹底するため追走指導も行っている。

これらの管理手法の均一化などによって「各種の取り組みが交通整理でき、漏れや不足部分がチェックできたことに加え、間接部門の従業員も何ができるかという意識付けができたことが大きい」という。

荷主と社会の要請に応えることで経営の差別化に取り組む物流業界にあって、全社を挙げた先進マネジメントシステムの導入は、今後の飛躍に向けた原動力になりそうだ。